

(2) 運航情報等の充実

航空情報（飛行場及び航空保安施設の運用状況、航空機の飛行に影響を及ぼすおそれがある事項等航空機乗組員に対して提供する航空機の運航のため必要な情報）、空港情報（使用滑走路、進入方式、気象情報等）、飛行中の航空機から報告があった情報等を体系的に整理・蓄積したデータベース等を利用して、運航者及び関係機関に対して航空機の運航に必要な情報の提供を行った。

11 スカイレジャーに係る安全対策の推進

超軽量動力機、パラグライダー、スカイダイビング、滑空機、熱気球等のスカイレジャーの愛好者に対し、(財)日本航空協会、関係スポーツ団体等を通じた安全教育の充実、航空安全に係る情報公開、「スカイレジャー・ジャパン」等のイベントの機会等を活用して、スカイレジャーに係る安全対策の充実・強化を図っている。

第3節 航空機の安全性の確保

1 航空機、装備品等の安全性を確保するための技術基準等の整備

航空機の安全性の向上を図るため、我が国の航空機の製造・運航により蓄積された経験を通じて得た知見を生かし、国際民間航空機関（ICAO）における国際標準の策定活動や国際会議等に積極的に参画して我が国の意見を反映した。また、これらの場で策定された国際標準の制定状況、航空機技術の進展等に対応し、航空機及び装備品の安全性に関する技術基準等を強化することにより、安全性の向上に努めた。

2 航空機の安全性に係る情報の収集、処理体制の充実等

航空事故の防止に役立てるため、航空機の安全性に関する情報の電算化を推進するとともに、外

国の耐空性管理当局とも情報交換を密にし、耐空性改善通報の発行等、速やかに適切な措置を講ずることができるよう体制を整えてきた。

特に耐空性改善通報については、将来のホームページ上の公開に向け、これまでに発行された全てのもの（約8,000件）について電子データベース化を行った。

3 航空機の検査体制の充実

航空機検査官の質的向上を図るため、研修制度を拡充し、企業や外国からの講師による研修の導入など内容の強化を図った。

4 航空機の整備審査体制の充実

耐空証明を受けた航空機が、その構造、強度、性能等の面で常に良好な状態を維持するためには、航空機の利用者自らが日常から整備作業を適切かつ確実に実施することが必要不可欠である。特に不特定多数の乗客の安全に係る航空運送事業者においては、整備の具体的な方法等を整備規程に定め、国土交通大臣の認可を受けた上で航空機の整備を行っている。

各事業者の行う航空機整備に対する整備審査を充実するため、整備規程の認可に係る審査のほか、新規参入や新機種導入等の際の運航開始前検査、事業者に対する定期的又は随時の立入検査（安全性確認検査）の実施、事業者の整備部門との定例連絡会議の開催、航空機製造者や製造国政府からの情報及び航空機の異常運航・故障等に係る情報の収集等を行い、これらを通じて各事業者の整備体制を審査し、指導監督を行った。

また、整備審査官の質的向上を図るため、研修内容の強化を図った。

5 航空機の経年化対策の強化

長期間使用される航空機が増加しているため、各国政府、航空機製造者、運航者等において経年

化対策が進められている。

我が国においても、従来から各航空運送事業者に対し、航空機の点検・整備の強化、改修の促進等を指示する等所要の対策を講じてきており、特に構造強度の改善、腐食防止、電気配線の経年化対策等については耐空性改善通報等により、措置の強化を図っている。

第4節 救助・救急体制の整備

1 搜索・救難体制の整備

航空機の遭難、行方不明等に際して、迅速かつ的確な搜索・救難活動を行うため、東京空港事務所に設置されている救難調整本部の救難調整施設の性能向上を行うとともに、搜索・救難に係る関係機関との合同訓練を実施した。

2 消防体制及び救急医療体制の整備

空港の所在する市町村における消防・救急体制については、関係消防機関による消防施設の整備を始め、所要の措置を講ずるよう指導した。

国土交通省は、空港消防力の充実強化を図るため、新千歳、稚内、熊本、大分、鹿児島及び那覇空港の化学消防車を大型のものに更新するとともに、東京国際空港に新規に大型化学消防車を配備した。

また、緊急時における指揮・指令等の体制強化を図るため、釧路、新潟、高松、高知及び大分空港に「保安防災用通信指令卓」を整備するとともに、これらの空港に保安防災専門職員の配置を行い一元的な指揮・指令体制の強化を図った。

さらに、平成12年8月に運用を開始した「空港防災教育訓練センター」においては、空港消防職員に対する専門的かつ総合的な訓練を実施するとともに、消火戦術等の研究等を推進した。

空港における救急医療体制については、年次計画にしたがい救急医療に必要な医療資機材の配備等を進め、救急医療活動が的確かつ円滑に実施で

きるよう関係医療機関との連携の強化を推進した。

また、早期に応急手当を実施するため、空港職員の応急手当講習の受講を推進した。

3 非常脱出確保と非常脱出時の方法の点検

旅客機からの非常脱出の安全性を向上するために取りまとめられた改善方策に基づき、航空運送事業者を指導した。

第5節 防衛庁における航空交通安全施策

防衛庁は、航空交通の安全を確保するため、航空法の規定の一部が適用を除外されている自衛隊が使用する航空機、自衛隊の航空機に乗り組んで運航に従事する者、自衛隊が設置する飛行場等について基準を定めるなど必要な措置を講じている。

また、自衛隊において航空事故が発生した場合には、専門的な事故調査委員会等において徹底的な原因究明を行った後、調査結果を踏まえ所要の再発防止対策を実施している。

なお、防衛庁は事故防止策の強化の観点から、飛行隊長等に対する補職前の安全教育の充実やメンタルヘルス施策を始めとする各種施策にも取り組んでいる。

1 航空機の運航・整備

自衛隊が使用する航空機の運航に関しては、異常接近防止、燃料の携行量、航空機の灯火等に関する事項を訓令等によって規定して、航空従事者にこれを遵守、励行させているほか、安全意識の高揚と飛行安全に関する知識の向上に資するため、飛行安全に関する教育の実施及び資料の配布、安全監察の実施等を通じて航空交通の安全の確保に努めている。特に、異常接近を防止するため、訓練／試験空域において訓練飛行等を実施するに当たっては、航空警戒管制部隊が監視管制用